

行政情報を統合データベース化し、 「デジタル予算書」として公開 行政デジタル化の一步先のかたちを示す

新潟県柏崎市



行政情報の可視化でも豊富な実績のある「MotionBoard」を採用

新潟県柏崎市は、行政情報の可視化・オープン化や高度な行政経営の実現を目的に、情報活用ダッシュボード「MotionBoard」を活用し、市の予算・決算、事業の進行・評価・報告までの情報を体系的に結び付けた仕組みを構築。このデータを基にした「デジタル予算書」をインターネットでも公開している。自治体予算書のデジタル化に加えて予算関連データを統合的に紐づけ、かつデータベースとして蓄積するこの仕組みは、自治体における情報活用・公開の先進的な取り組みとして広く注目されている。

写真左より：柏崎市 財務部 財政管理課 財政係 主査 板谷 大良 氏、柏崎市 総合企画部 企画政策課 課長代理 若月 啓満 氏
※部署名は取材当時のものです。

Summary

概要



背景・課題

- 予算・実績、進行管理、事業報告などの情報が部署ごとにバラバラに管理されていて活用しづらかった
- 庁内職員や市議会議員、市民によるコミュニケーションを活性化させたい
- インターネットで公開していた予算書・決算書が、分かりづらかった



導入のポイント

- 政策関連情報を統合可能に
- 庁内職員や市議会議員、市民が同一データを共有可能に
- 条件検索やソート、関連情報とのリンク等を可能に



効果

- 横断的な情報確認を実現
- 市民行政間のコミュニケーションの活性化に期待
- 従来把握されづらかった情報へのアクセス性を向上

市民行政間のコミュニケーションの活性化にも期待

柏崎市では2020年度にデジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画を策定し、暮らし・産業・行政のDXなどを推進している。その取り組みを象徴するのが「デジタル予算書」だ。その誕生のきっかけは、従来ながらの紙やPDFファイルの文書形式による予算書・決算書の見づらさや分かりづらさにあった。

予算書のデジタル化プロジェクトでは、オペレータが提供する行政経営管理コンサルティングサービスを適用。両者は検討を重ねた結果、データを可視化する基盤としてウイングアークの情報活用ダッシュボード「MotionBoard」の採用を決定した。

2018年秋に、MotionBoardを使ったトライアルのシステムを構築し、庁内職員や市議会議員(市議)に対してデモを実施。続く2019年度には、

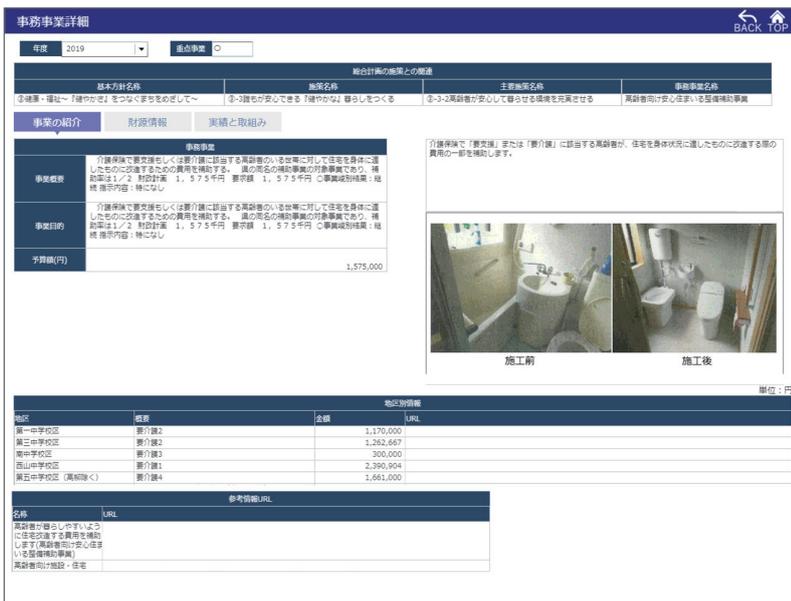
コンセプトの検証結果を踏まえて具体的なデジタル予算書の導入計画を策定、2020年に要件定義から運用までの設定をつめていった。ユーザーインターフェイスについても、職員の目線、市議の目線、市民の目線とそれぞれの活用シーンを想定しながら決定した。

こうして2020年11月に庁内での運用をスタートし、2021年2月よりインターネットに公開した。これまで個々に管理されていた予算・実績、進捗管理、事業報告といった政策関連情報を統合データ化することで、横断的な情報確認を実現するとともに、条件検索やソート、関連情報とのリンク等により、従来把握されづらかった情報へのアクセス性の向上も実現している。また、既存公開情報との連携およびアクセス性の向上により、行政関連情報をより多くの市民と共有可能となった



うえ、庁内職員や市議、市民が同一データを共有し議論できるようになったことで、市民行政間のコミュニケーションの活性化にも期待が集まっている。

柏崎市が全国に先駆けて開発したデジタル予算書は、国や他の自治体からも注目を集めている。今後、同市では、そうした他の行政機関とも積極的に情報交換をしながらシステムをブラッシュアップしていく計画だ。



MotionBoardを活用した「デジタル予算書」



新潟県 柏崎市

市制施行 : 昭和15年
 人口 : 86,833人 (2015年国勢調査)
 URL : <https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/>

新潟県のほぼ中央に位置する柏崎市は、古くから北国街道の宿場町、北前船の寄港地など交通の要衝として栄え、豊かな経済と伝統文化を築いた。明治時代には多くの製油会社が設立され、それを背景に機械金属工業も発展し、現在の産業の基盤となっている。現在同市では、「市政のデジタル化」によるさらなる行政サービスの向上に取り組み、2020年度にはデジタル・トランスフォーメーション推進計画を策定し、暮らし・産業・行政のDXなどを推進している。

サイト内でより詳しくご紹介しております。

<https://www.wingarc.com/product/usecase/301.html>

